

西の湖で放流されたホンモロコの産卵接岸状況

亀甲 武志・岡本 晴夫・氏家 宗二・井出 充彦

1. 目的

西の湖においては H23 から電気ショックャーボートによる外来魚の集中駆除と水田を活用したホンモロコ・ニゴロブナの種苗生産放流事業が展開されている。その事業の成果もあり、西の湖ではホンモロコの産卵が回復してきた。西の湖の水田で育成、放流された種苗にはすべて ALC 標識を施している（以下 SR 標識魚）ことから、その後の追跡が可能である。SR 標識魚は成長とともに西の湖から琵琶湖へ移動し、さらに琵琶湖では広く分散することが確認されている。しかし、SR 標識魚の産卵状況は不明であることから、琵琶湖沿岸や西の湖、伊庭内湖で産卵のため接岸したホンモロコ親魚を採捕して、SR 標識の混獲率を調査した。

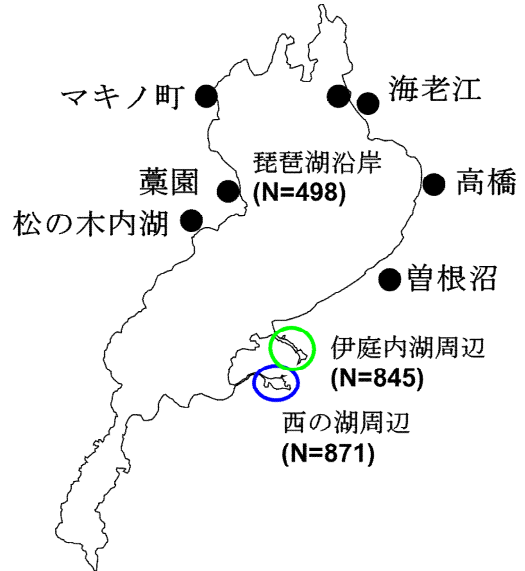


図1 産卵のため接岸した親魚の採捕場所

2. 方法

琵琶湖沿岸や内湖、西の湖周辺、伊庭内湖周辺で H26 年 2~6 月に、電気ショックャーや刺し網、たもすくいなどで産卵のために接岸したホンモロコ親魚約 2214 個体を採捕した。標本は体長、体重、生殖腺重量の測定、鱗による年齢査定を行った。また耳石を摘出して ALC 標識の有無を確認した。

3. 結果

1 歳魚のうち、SR 標識魚の混獲率は西の湖周辺では雌で 36.4%、雄で 17.9%であった。一方で琵琶湖沿岸では SR 標識魚の混獲率は 0 であり、伊庭内湖周辺で数尾確認された。このことから、SR 標識魚は育成された場所付近に産卵のために接岸する可能性が高いと考えられた。それらの接岸した SR 標識魚が産卵することができれば、天然再生産による増殖が期待されると考えられた。

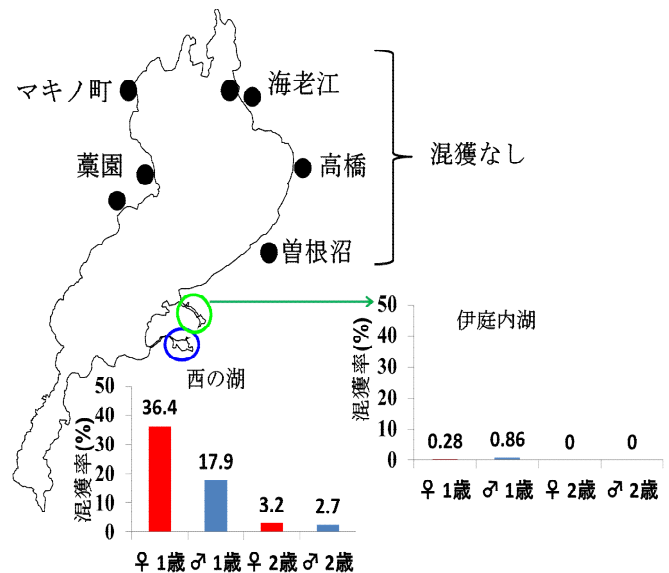


図2 各地点での SR 標識の混獲率